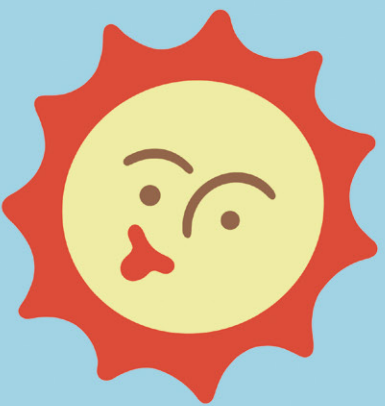




患者さん中心の透析医療を追い求めて。

ONE!

Kokuradaichi hospital

2025

VOL. 023

JULY



ONE! 023

2025年7月16日

いつでも血糖値をチェック 持続血糖測定器 (rtCGM) 導入



小倉第一病院 思い出の一丁目一番地

私のONE!



診療放射線科 主任

山下 敬史

プロフィール

2006年W杯決勝でジダンが頭突きした日に入職。今ではギラヴァンツ北九州を応援する放射線技師。

新たな「1」チャレンジ

私が小倉第一病院に入職したのが2006年。それから約20年間、唯一の放射線技師として勤務してきました。当院では、放射線関連の機械も限られています。その中で超音波検査など、一般的にはあまり放射線技師が担当しないような業務も担うようになり、シャントに関する知識や、超音波装置についての知識が身に付きました。そういった経験で、新築移転では新たに超音波装置を使用したカテーテル手術が開始され、チームの一員として参加することになりました。そのため、建築設計では動線の工夫が必要となり放射線室の裏に手術室を配置するという試みをしました。このように、小倉第一病院では常に新しい試みに前向きで、現場の声を反映しながら進化を続けています。これからも、他の病院にはない独自の工夫や視点をもち、唯一無二の医療の形を追求していける病院でありたいと思っています。



医療法人真鶴会 小倉第一病院

〒803-0846 福岡県北九州市小倉北区下到津1丁目12-14
TEL:093-582-7730 FAX:093-592-7689

【今回の特集】持続血糖測定器 (rtCGM) は、従来のように指先に針を刺して測定する「自己血糖測定」とは異なり、腕に貼り付けたセンサーをかざすだけで、いつでも血糖値をチェックできる画期的な機器です。

◎表紙イラストレーター／ZUCK

センサーを貼るだけで、
血糖の動きが見える

二の腕に貼った小さなセンサーが体内のグルコース濃度を常に測定し、血糖値の変化を記録します。グラフで「いつ血糖値が上がったか・下がったか」がわかるので、食事や運動、薬の効果を“見える化”できます。自分の生活習慣を振り返るきっかけにもなり、治療への意識が高まります。



痛みや不安を減らす
新しい選択肢

従来は、1日に何度も指先に針を刺す必要があり、患者さんにとっては大きな負担でした。センサーを貼ったまま10～14日間使えるため、毎回針を刺す必要がなく、痛みや不安を軽減できます。アラート機能付きで低血糖・高血糖時にも症状が出る前に気づきやすく、安心して日常生活を送るための新しいツールとして注目されています。

メリット		デメリット
アラート機能により 低血糖・高血糖を察知	就寝時の低血糖にも気付ける	機械トラブル時の対応が必要
アプリで家族とデータ共有可能	血糖の変動傾向 (上昇中／下降中)がわかる	受診時の金銭的な負担が増える

小倉第一病院でのサポート体制

当院では「FreeStyle リブレ2(アボット社)」と「Dexcom G7(デクスコム社)」を取り扱っており、糖尿病専門医・糖尿病看護認定看護師が導入をサポートしています。装着方法やデータの見方、日常生活での活用方法まで、丁寧に指導しています。患者さん一人ひとりに合わせた支援を行い、血糖コントロールの改善を目指します。導入をご検討中の方は、ぜひお気軽にご相談ください。



MEASURE
BLOOD SUGAR LEVEL EASILY

いつでも血糖値をチェック
持続血糖測定器(rtCGM[※])導入

持続血糖測定器は、従来のように指先に針を刺して測定する「自己血糖測定」とは異なり、腕に貼り付けたセンサーで、24時間いつでも血糖値をチェックできる画期的な機器です。今まで「点」でしか見えなかった血糖の変化を「線」として捉えることができます。数値の変化をリアルタイムで知ること、食事や運動を工夫する意欲が湧き「自分で治療に関わる」実感を与えてくれます。「今日はうまくコントロールできた」と感じられることが、治療継続のモチベーションにもつながります。

※real-time Continuous Glucose Monitoring